

# きよの詩あしたの詩



一般社団法人日本作詩家協会年刊詩謡集  
2025年版



## 序

会長 石原信一

2025年の今年、日本作詩家協会は、創立60周年を迎えた。

この祝福の年に、詩謡集「きょうの詩 あしたの詩」を会員のみなさんと共に発刊できることに一層感慨深いものを感じます。

これまでの詩謡集では、会員のみなさんに一人一編の詩の寄稿をお願いしてきました。しかし今年は一人二編まで受け付けることが決まり、自己表現の枠が広がりました。

もっと詩を書きたい、もっと読んでもらいたいという会員のみなさんのあふれる想いに、詩謡集委員会がお応えしました。

子供の頃、何かに突き動かされたように走りたくなったり、泳いでみたくなったりしたことはありませんか。上手い、下手ではなく詩を書きたくなる感情も同じなのではなかと思うのです。その純粹さの中に、きらりと光る言葉がみつかります。

これが生成AIにはないのです。学習するために打ち込むデータには作為があります。みんなの感情は測ることができません。個人個人が違うからです。そこにあなただけの詩があるような気がしてなりません。

さあ、ページを開いてあなただけの詩をみつけましょう。



ビール	ジヤパン	アーヴアン	沢井	一二
ふるさと恋歌		アーヴアン	沢井	一三
ザ・昭和		相原利夫		一四
親孝行がしたいなあ		蒼	ヨシヒロ	一五
乗り懺悔（橋幸夫さんに捧ぐ）		青木圭介		一六
津軽のいなせ船乗りさん		赤坂佳津子		一八
望郷 北の春		青木圭介		一九
雨の京都		阿川礼		二〇
男一代—葛屋重三郎—		阿川礼		二一
昔の男		赤坂佳津子		二二
なんちやない		阿川礼		二三
北都物語		青木圭介		二三
恐	山	阿川礼		二三
予 感		赤坂佳津子		二三
秋萩みれん		阿川礼		二三
江差恋港		青木圭介		二三
独行船		阿川礼		二三
冬すずめ		阿川礼		二三
ありがとう母さん		阿川礼		二三
咲かそう夢の花		阿川礼		二三
愛の雪降れ降れ		阿川礼		二三
あの日の薔薇		阿川礼		二三
人生 諦めが肝心		阿川礼		二三
オオバコの唄		阿川礼		二三
伊藤彰	一乗谷詩穂	アーヴアン	沢井	一二
九	市川武志	相原利夫		一三
六	市川武志	蒼	ヨシヒロ	一四
八	市川武志	青木圭介		一五
三五	市川武志	赤坂佳津子		一六
三四	市川武志	阿川礼		一七
三三	市川武志	青木圭介		一八
三二	市川武志	赤坂佳津子		一九
二二	市川武志	阿川礼		二〇

雨の広島	井上	ゆうき	三六
竜飛岬の女	岩白	かづこ	三七
酔いどれた	くちびるで	氏原一郎	三八
そりやないね	そりやないね	羽蝶まいこ	三九
乾杯セラビ	海野清一郎	四〇	四一
日本の称歌	翁川美郷	四一	四二
自衛隊	大石敬司	四二	四三
お釣りの時間	大沢桃子	四三	四四
恋のメトロ	大山詩央	四五	四五
女の挽歌	小山内圭	四五	四五
北旅愁	織田まり	四六	四六
失恋後遺症	小野塚清一	四七	四七
永遠の愛	角谷昇	四八	四八
冬桔梗	春日井博	五一	五一
願い橋 叶え橋	片岡博	五〇	五〇
ムーンロード	片岡博	五一	五二
令和の藤吉郎	角谷昇	五三	五三
殿様カエルの旅人さん	春日井博	五四	五四
笛吹き橋	片岡ふみと	五五	五五
五十年一夜	加藤ひさつぐ	五六	五六
氷結	加藤ひさつぐ	五六	五六
春風吹く頃 ～母へ～	金澤猛	五七	五七
ふるさとの春	加藤ひさつぐ	五八	五八
昭和チックな居酒屋で	紙谷良子	五九	五九
ふたり愛 ふたつ愛 こころ愛	川井春子	六〇	六〇
Ghost	京瑛子		
老いて益々			

恋唄蜻蛉	これからふたり	國枝星志	六二
永遠の華		國武浩之	六三
出直しの春		小嶋高志	六四
朧月夜		こはまかずえ	六五
俺の初恋		小松正道	六六
人それぞれに		小松正道	六七
文房四宝		近藤英子	六九
札幌哀愁		紺野あづさ	七〇
あなたの笑顔		五月女心ノ助	七一
自分次第		佐久間信	七二
三軒茶屋の灯		佐々木ひさこ	七三
天晴れ女房		佐々木ひさこ	七四
恋雨の砂丘峯		佐々木ひさこ	七五
明日を信じて		佐渡ミユキ	七六
呼出し大将		佐渡ミユキ	七七
望郷グルメ		佐東たどる	七八
日曜日の幸せ		志木博	七九
ふたり秋模様		志木博	八〇
この想い伝えたいのに		城山正志	八一
虹の橋を渡つて		城山正志	八二
青い年		城山正志	八三
荒城の里		城山正志	八四
お邪魔虫		木紀代	八五
時代おくれ		木紀代	八六
月夜の蝶々		木紀代	八七

花街ごころ	高須はじめ	八八
生々流转	高塚和美	八九
みちのく本線 男の旅路	高塚和美	九〇
クラブ ナイトメア	高野博美	九一
めおと湯呑み	高野博美	九二
馬鹿な俺	高橋麗秋	九三
北の漁火街道	高畠じゅん子	九四
人 生	たきのえいじ	九五
憧 れ	たくわん	九六
月下美人	田中いぶき	九七
黄昏時のめぐり逢い	棚波詞雄	九八
依依恋恋	たにはら伸	九九
横浜メモリー	多野亮	一〇〇
千里浜に恋した瞬間	珠妃いおり	一〇一
女将恋情話	千草三紀	一〇二
男の歳時記	千草三紀	一〇三
港酒場	塚田英夫	一〇四
山河を越えて	恒川敬代	一〇五
舞 姫	島幸生	一〇六
マウントリベンジ	寺島幸生	一〇七
道	寺島幸生	一〇八
テルテルトーク ハッピーライフ	鳥越久男	一〇九
オレンジ色のつばさ	鳥越久男	一〇九
君の瞳	桃仙橋佳	一〇七
黒い星	桃仙橋佳	一〇八
月光に希望がみえる	中林永田みゆ	一一一

ハムエッグ	霧こめるあの道	中村彰臣	一一四
ひまわりの花	灘	東真	一五
田道の春	名取沙紀	一一六	
港駅	鳴海徳	一一七	
世界平和	鳴海徳	一一八	
青い服	丹羽敏彦	一一九	
きっと僕の我がままだろう	丹羽敏彦	一二〇	
シーグラス	NO MOSS	一二一	
最果て港	羽澤文子	一二三	
雪月夜	華季あや	一二五	
ホタル草	みづき	一二四	
腎臓守れるのは君だから	浜源太	一二六	
三毛猫	浜源太	一二七	
天翔る恋	林伸太	一二八	
東京金魚	原太	一二九	
こころの女よ	源太	一二九	
疑問 難問 困り問	文彦	一二九	
竹世の心	歩果	一三〇	
二匹の蝶々	道男	一三一	
花一輪	道男	一三一	
哀恋岬	城たかし	一三五	
深爪	みのり	一三四	
愛つて・愛するつて	みのり	一三四	
最終列車	たかし	一三五	
親愛なるエフ様 (since1983)	一三七	一三七	
松本白馬	一三八	一三八	

再会酒場	真鍋 加津美	一四〇
惚れたがり	丸山 八留男	一四一
もみじ雨	まんだ あつこ	一四二
湿気つた煙草と燐寸	三木 ミノル	一四三
無限大の自由	三木 ミノル	一四四
斑鳩の里	みさき まさる	一四五
剣の道	みさき まさる	一四六
しのぶと言つ女	三里 こうじ	一四七
俺の道	水紀 美春	一四八
聞き上手	水谷 啓二	一四九
未来への手紙	水谷 啓二	一五〇
熱海ふたり	美手 けんじ	一五一
母は心の中に	美手 けんじ	一五二
歌はともだち	みね ゆきと	一五三
美しきかな我が人生	宮内 たけし	一五四
赤いチャンチャンコのうた	宮尾 昌成	一五五
幸せ運んで	武笠 和夫	一五六
ハッピーアップ	武笠 和夫	一五六
恋の街角	矢坂 秀司	一五八
恋の街角	八代 圭一	一五九
靴 音	安井 幸雄	一六〇
エキゾチックタウン神戸	山甲斐 晶子	一六一
だんごまつり	山甲斐 晶子	一六二
二人の HEAVEN	山田 としかず	一六三
望郷おやじの岬	山田 としかず	一六四
あなただけしか	山田 ひろし	一六五

幕末の恋・龍馬とおりよう ..... 悠月 ねね ..... 一六六  
昭和一〇〇年 幸せレトロ音頭 ..... ゆくさ みやび ..... 一六七  
雨のエチュード ..... ユメ子 ..... 一六八  
横浜ふたり坂 ..... 由梨 恵子 ..... 一六九  
遙かな父へ ..... 一七〇  
セピア色の部屋 ..... 一七一

編集後記 ..... たきの えいじ

題字 星野 哲郎